

宇都宮市新最終処分場 (仮称) 第2エコパーク建設工事



事業概要

施設の種類	一般廃棄物最終処分場（被覆型）
建設地	宇都宮市下横倉町
敷地面積	約36ha（最終処分場区域 約26ha, 環境保全活用区域 約10ha）
埋立容量	約290,000m ³ （15年間分相当）
埋立対象物	焼却灰, 固化灰（ばいじん）, 不燃残さ など
設計・施工	鹿島クボタ渡辺増淵建設共同企業体
設計・施工監理	株式会社 エイト日本技術開発
事業主体	宇都宮市（公設公営）

施設コンセプト

安全で安心な施設	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技術や設備を効果的に導入し、安全性の高い施設とします。 埋立地を建物で覆うなどの最新の技術を導入し、自然災害にも強い施設とします。 整備後も市が責任を持って適正に管理し、透明性の高い施設運営を図ります。
環境と共生する施設	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境や自然環境の保全に努め、大気、水、身近な動植物の生息・生育環境などに配慮した施設とします。 再生可能エネルギーなどを利活用し、環境に優しい施設とします。
地域と融和する施設	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の田園風景などの景観との調和を図り、地域に溶け込んだ施設とします。 施設を積極的に開放し、地域に根ざした施設とします。

施設概要

主な施設名称		構造や規模等
主要施設	被覆施設	構造：全体被覆方式, 鉄骨造 規模：幅167m×長169m
	埋立地	貯留構造物 構造：土構造（改良盛土） 規模：幅163m×長165m×深さ15m
	遮水工	構造：底面部 二重遮水シート, ベントナイト砕石 法面部 二重遮水シート 設備：電気式漏水検知システム
浸出水処理施設		方式：凝集沈殿処理+生物処理+砂ろ過処理 能力：55m ³ /日 放流先：公共下水道（川田水再生センター） 散水：沢水と雨水を利用

◆ 環境保全対策

周辺環境を保全するために、環境影響評価や自然環境アドバイザーの意見を踏まえ、生活環境及び自然環境に係る環境保全措置を適切に実施します。

項目	主な環境保全措置（工事中・供用中）
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音、低振動型の重機の使用 ・民家近接箇所における防音シート等の設置 ・雨水調整池の先行設置（土砂流出防止）
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・東側沢及び湿地環境の保全 ・森林の適切な管理 ・確認された希少動植物の保全（植物の移植等）



保全する主な希少種

◆ 交通安全対策

- ・工事車両の出入口には交通誘導員を配置します。
- ・大型車両による資機材搬入は、国道293号～県道73号を通るルートとします。
- ・工事用車両の待機は建設地内で行います。

◆ 工事工程表

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
実施設計・申請	[Progress bar from start of 29th year to end of 29th year]		
埋立地工事（雨水調整池含む）	[Progress bar from start of 29th year to end of 29th year]		
被覆施設工事	[Progress bar from start of 30th year to end of 30th year]		
遮水工工事	[Progress bar from start of 31st year to end of 31st year]		
管理棟・浸出水処理施設工事	[Progress bar from start of 31st year to end of 31st year]		
関連施設工事	[Progress bar from start of 29th year to end of 31st year]		

◆ 施設案内



問合せ先

宇都宮市環境部廃棄物処理施設整備室

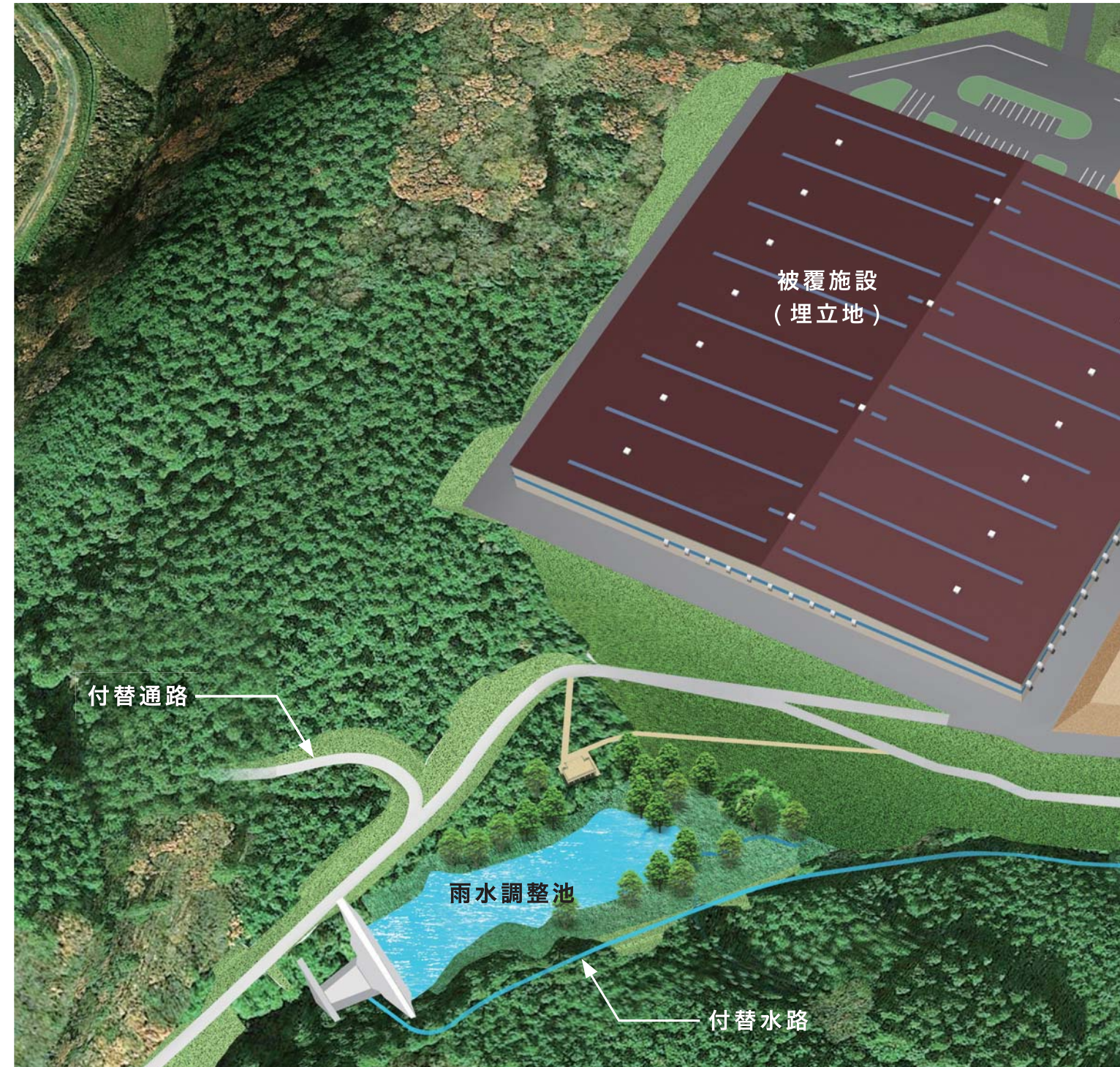
TEL 028-632-2695 FAX 028-632-3316

E-mail u35003003@city.utsunomiya.tochigi.jp

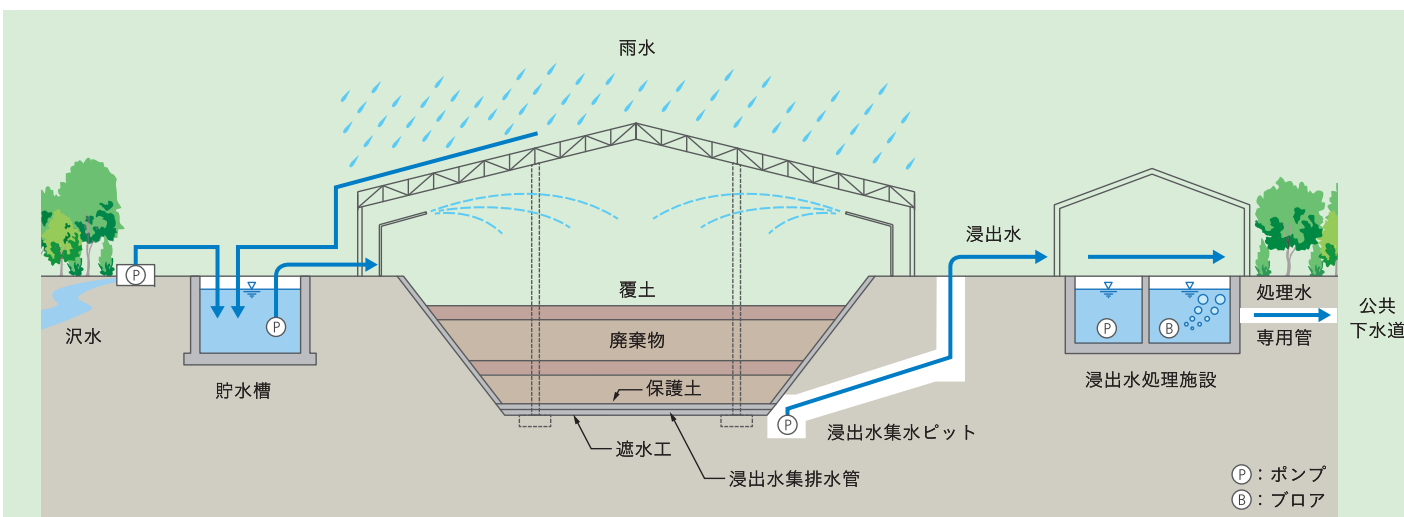
◆ 全体区域



(仮称) 第2工区



◆ 被覆型最終処分場の仕組み



- ・埋立地を屋根と壁で覆い、雨水の浸入や埋立物の飛散を防止します。
- ・沢水や雨水を利用して、人工的に散水し廃棄物を洗浄します。
- ・廃棄物を洗浄した水は、浸出水処理施設で浄化した後、公共下水道に放流します。

◆ 雨水調整池

- ・沢の最下流部にコンクリートえん堤を築造し、掘込み式の雨水調整池を設置します。
- ・施設区域内の雨水は雨水調整池で流量を調整し、専用の雨水放流管を経由して田川に放流します。
- ・造成工事に先行して雨水調整池を整備し、工事中の濁水対策としても機能させる計画とします。



(イメージ)

パーク全体概要

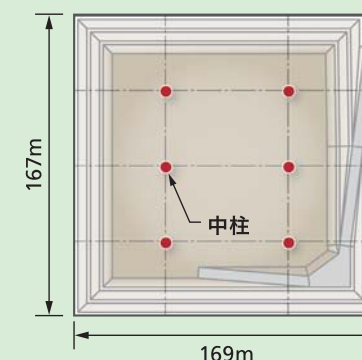


◆ 見学デッキ

- 管理棟から被覆施設内の埋立作業を見学できるデッキを設置します。
- 見学者だけでなく、市民や地域の方も広く利用できる研修室を設置します。

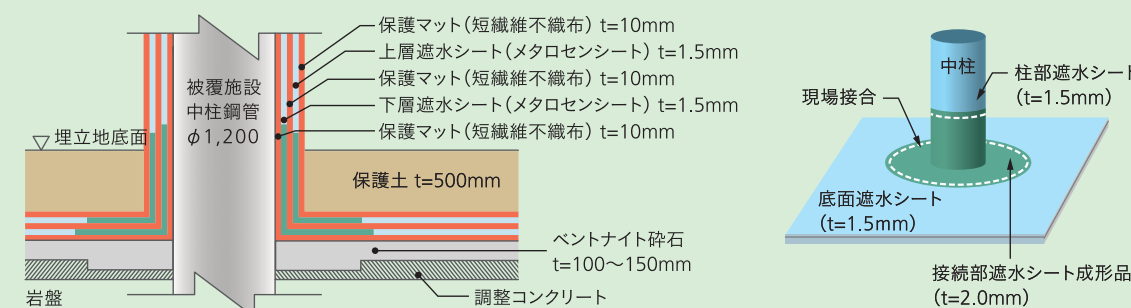


◆ 被覆施設



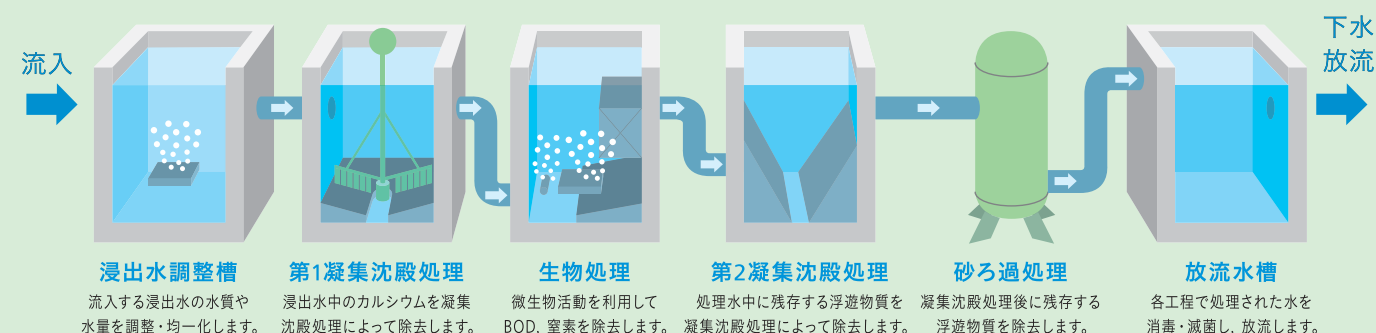
- 被覆施設は、167m×169mの大スパンの屋根架構を支える構造として、ボックストラス桁と中柱及び壁面ブレースで構成される構造形式を採用します。
- 建物に加わる地震力を負担する壁面ブレースに十分な強度を持たせることで、東日本大震災クラスの強大地震にも耐え得る高い耐震性能を確保しています。
- 中柱の本数を6本に抑えることで、埋立作業の重機や搬入車両が場内をスムーズに走行・転回できる広い作業空間を確保しています。

◆ 遮水工



- 遮水工は、国の基準を満足する二重遮水シートに加えてベントナイト砕石遮水層で構成される三重の遮水構造を採用します。
- 埋立地底面に建つ中柱周辺は、遮水構造の連続性と信頼性を確保するために、柱の形状に合わせて工場で一体成形した遮水シートを採用します。
- 漏水検知システムにより、供用中の遮水シートの健全性をモニタリングします。

◆ 浸出水処理施設



- 埋立地からの浸出水を規定の水質基準に適合するように処理します。
- 処理水は、専用の放流管を經由して公共下水道に放流します。